

## WAW！パネル・ディスカッション「地方活性化と雇用創出，そのためのリーダーシップ」

### 現状・課題

2018年のアルゼンチンで開催されたW20では、地方部の女性が重点課題とされた。地方は、発展段階により異なるが、都市部との経済的格差、健康や教育などの社会的格差、人口の流出や過疎化など、様々な課題を抱えている。中でも、女性や女兒は、固定的性別役割分担や男尊女卑の風潮が残る地域では、さらに困難な状況に置かれる。SDGsの掲げる「誰一人取り残されない」社会を築いていく上で、人々が暮らす地域社会が包摂的で持続可能であり、住みやすい環境が確保されていることが重要である。

現在の日本においては、過度な東京への一極集中の是正が課題となっている。近年、年間10万人以上の東京圏への転入超過が続いており、その大半を10代後半、20代の若者が占めている。また、男女別にみると、男性よりも女性の転入超過が多い傾向にある。地方から女性や若者が大都市に移動し、そのまま地方に戻らないという状況が続けば、地域社会は将来的に消滅の危機を迎える。東京圏への転入超過の要因の一つは、「雇用」であり、「しごと」の創出が地方創生のカギを握る。技術の発展は、地方での「しごと」を可能とする。テレワークやクラウドワークなどにより地方在住でも仕事が可能となり、また、ネット販売やSNSなどを活用して地方での起業も難易度が下がっている。さらに、第4次産業革命による新たな技術を地方都市で実装する試みも始まっており、新たな地域の成長のメカニズムとなる。農林水産業も地域経済の基盤となっている。途上国の女性農業従事者のエンパワーメントを通じて、1.5億人の飢餓を減らすことが可能とのFAOの推計もある。また、女性への投資は、その収益が子供・家庭・地域に再投資される傾向が高いとの分析もある。

日本では、農業就業人口全体は大きく減少する一方で、44歳以下の新規就農者数は増加傾向にあり、特に女性の伸び率が高くなっており、従来の農業の枠にとらわれない、新たな技術を活用した、新たな価値・サービスが生み出されていくことも期待される。観光も地方創生にとって重要な資源である。訪日外国人の増加を追い風にして、地方の観光が増加している。SNSやAIなどの様々なツールを活用した新たな情報発信が、地域の魅力を伝え、地方に旅行者を呼び込んでいる。

「男性は外で働き、女性は家庭を守る」という固定的性別役割分担意識や、リーダーは男性が行うものなどという「男尊女卑」の意識も、若い女性にとっての魅力的な地域づくりを阻害している。日本では、町村議会議員に占める女性の割合が10%未満であるなど、住民生活に密接にかかわる地方政治に占める女性の割合が低く、女性のニーズに対応した政策の優先順位が低いことが懸念される。コミュニティレベルでは、自治会長に占める女性の割合が5.5%にとどまる。こうした中、地域によっては、首長のリーダーシップにより、女性の声を徹底的に聞き、ニーズを把握し、政策に反映する取組を行っている。そして、女性が就労、両立、起業しやすい環境を整えるとともに、子育てしやすい環境も作っている。トップのリーダーシップや、政治の場に女性が参画していくことにより、地域社会を包摂的で持続可能なものに変えていくことが求められている。この課題は、SDGs目標1(貧困撲滅)、目標5(ジェンダー平等)、目標8(働きがいと経済成長)、目標9(産業と技術革新)、目標10(不平等是正)、目標11(住み続けられる街づくり)に密接に関連している。

### 論点

- 地方で雇用や仕事を生み出し、地方への移住や起業を促すためには、どのような取組が必要か。
- 日本で若者、女性の新規就農者が増加しているが、その要因は何か。若者、女性の参画で何か変化は起こっているか。持続的な流れにするには、どのような取組が必要か。
- 地方が女性にとって暮らしやすい場所となるためには、どのような取組が必要か。地域の女性のニーズを把握し対応していくとともに、地方に残る固定的性別役割分担意識や男尊女卑の意識をどのように短期的・中長期に変えていくことができるか。
- 活力ある街づくりを進めるうえで、地域のリーダーが持つべき意識は何か。